

(続紙 1)

京都大学	博士 (地球環境学)	氏名	Hoang Thi Nguyen Hai
論文題目	Toward sustainable forest management in Vietnam: Forest certification development and its policy implications (ベトナムにおける持続可能な森林経営に向けて: 森林認証制度の展開とその政策的含意)		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>本論文は、ベトナムにおける森林認証の導入事例として、小規模森林保有者(実質的には小規模農家)のグループ認証の先進事例に焦点をあて、その実態解明と波及効果を明らかにした。論文は8章から構成されており、各章の内容は以下の通りである。</p> <p>第1章は、研究の導入部であり、持続可能な森林管理と森林認証について整序するとともに、研究の背景と意義について論じている。</p> <p>第2章では、研究課題、データおよび調査方法、対象事例の選定理由、本論文の構成について論じている。本論文の研究課題は、ベトナムにおける小規模森林保有者が認証取得によって得られるメリット・デメリット、認証取得のコスト分析、認証がもたらす社会的・環境的な影響などの実態を解明し、普及に向けた政策を提言することである。</p> <p>第3章は、研究レビューである。森林認証制度に関する研究の展開、先進国と途上国を比較し、特徴が整理されている。</p> <p>第4章では、森林認証の拡大要因を明らかにしている。ベトナム経済が木材の世界市場に包摂されるようになった結果、国際法や主要貿易国の基準に沿った持続可能な森林の保管理と生産体制の構築が求められるようになった。他方、森林経営に対する国家政策が刷新され、中央政府からコミュニティ、家族、個人に森林の利用権が委譲され、小規模森林保有者による森林管理の自由度が高まった。これらの状況変化により森林認証に適した条件が整ったことを指摘した。</p> <p>第5章は、ベトナムで初めて森林認証を取得したクアンチ省の小規模森林保有者グループを対象にSWOT分析を適用し、関連文献資料の精査に加え、政府関係者およびプロジェクト関係者への詳細なフォーカスグループミーティングやインタビューを実施し、内部の強み・弱み、外部の機会・脅威を整理した。さらに、SWOT分析の手順に従い、強み・弱みと機会・脅威の組み合わせから、今後、グループ認証を拡大・発展させるために有効な戦略を提案した。</p> <p>第6章では、ヒアリング調査によって、森林認証および関連事業にかかる総コストならびに認証による恩恵を明らかにしている。その結果、認証コストは小規模森林保有者の負担能力と比較して高額であるが、グループで認証を受けるために1戸あたりの負担が軽減されること、認証を受けた木材林産物の販売価格が高くなること(価格プレミアム)などから、認証コストを回収することが十分に可能であることを実証した。</p> <p>第7章では、認証生産者と非認証生産者の2群にアンケート調査を実施し、森林認証のインパクトを検討している。非認証者と比べて認証者は、社会面では、人的ネットワークの拡大や有利なローンなどへのアクセスが容易になり、ビジネスチャンスを得る可能性が高くなること、環境面では、環境負荷が少ない森林管理技術や伐採方法が採用されていることを明らかにした。反面、技術研修や会議参加などのグループ活動を面倒と感じていること、グループ活動を維持するリーダーの確保が困難であること、収穫までの期間の長期化を嫌う傾向があることなどの問題点をあわせて指摘した。</p> <p>第8章では、本論文の研究成果を総括し、政策提言と残された課題を提示した。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

森林認証は、持続可能な森林経営とそのような森林から生産される木材製品の取引を促進するための手法であり、市場メカニズムを介して持続的に森林資源を保護するためのアプローチの一つである。1980年代後半から先進国を中心に導入されたが、収奪的な森林利用を防止するために発展途上国においても普及拡大が期待されている。しかし、森林保有構造、認証コスト、技術的な制約、市場アクセスの難易、制度的問題などにより発展途上国の森林認証の普及は先進国と比べて遅れている。本論文は、ベトナムでグループ認証を導入した先進事例を取り上げ、文献資料、関係者への網羅的なヒアリング調査、参加者へのアンケート調査などから小規模森林保有者によるグループ認証の可能性を多角的に明らかにしたものである。

本論文で学術的に評価できる点として、以下の3点が挙げられる。

1. 発展途上国における森林認証の普及のための方策として、小規模保有構造を克服するためにグループ認証に着目し、文献資料と詳細なインタビューを駆使して、同アプローチが直面する課題を整理し、それを乗り越えるための具体的な開発戦略を俯瞰的に提示したことである。
2. 森林認証および関連事業にかかる総コストと認証された木材林産物の価格プレミアムによる収益増加を比較することで、小規模保有者のグループ認証による制度が経済的に十分持続的であることを実証したことである。
3. 森林認証による生産者と認証を受けていない生産者に対するアンケート調査の結果を比較し、認証者の方が環境に優しい森林管理を実践していることを実証したことである。

以上のように、本論文は、文献資料、インタビュー調査、アンケート調査などを駆使して、ベトナムにおける小規模森林保有者のグループによる森林認証の持続可能性と課題について多角的に検討した事例研究である。グループ認証には克服すべき課題が残されてはいるものの、小規模・家族経営が主体となる発展途上国の林業生産構造を前提とした場合、グループによる森林認証制度は、森林の持続的利用と生産者の管理技術の向上、所得向上の面から有効であることを明らかにした。

本論文の成果は、発展途上国における森林認証制度の普及・拡大に資する貴重な知見をもたらすとともに、地球環境学、持続的農村開発論、森林利用学の学術的發展に寄与するところが大きい。

よって本論文は博士（地球環境学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、令和6年1月31日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、博士（地球環境学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。